

ゾウの引っ越しとは？



金沢動物園 ゾウ飼育担当班

動物園では、動物を他の動物園に移動させる「引っ越し」が多々行われています。引っ越しといってもその目的は様々ですが、「繁殖に適した年齢になったので、ペアリング相手が欲しい」「遺伝的な多様性を確保するため、異なった血統を導入したい」など、繁殖を目的として引っ越しさせることも多いです。

では、動物たちはどのように引っ越すのでしょうか？

ズーラシアと金沢動物園間で行われたゾウの引っ越しについて紹介しましょう。

引っ越ししたのはズーラシアで飼育されていた「チャメリー」というメスのアジアゾウで、当時25歳でした。

ラスクマル



シュリー チャメリー



ズーラシアでは、オスのラスクマル(26歳)とメスのシュリー(21歳)と一緒に3頭で飼育されていました。

ヨーコ ポン



引っ越し先の金沢動物園では、オスのボン(39歳)とメスのヨーコ(38歳)を飼育していました。両園とも繁殖を目指してゾウをペアリングしてきましたが、繁殖には至っていませんでした。

ゾウ同士の相性もあるのですが、幼いころから一緒に飼育されたオスとメスでは兄弟的な関係となり、繁殖にむかなくなってしまうこともあります。そこで、これまで会ったことのないズーラシアのチャメリーと金沢動物園のボンをお見合いさせ繁殖を目指すことになりました。

まず初めに、引っ越し先の金沢動物園でもチャメリーがすぐに飼育環境になじめるように、金沢動物園の飼育員がズーラシアに通ってチャメリーと顔合わせをして世話の仕方を教わりました。

エサをあげながら新しい飼育員に慣れてもらいます。また、同時進行で引っ越しの時に使う輸送箱に入る練習も行います。



ゾウを輸送する場合、丈夫な箱に入ってもらい、クレーンでトラックに乗せて移動するのですが、メスのチャメリーでも体重は 3000 kg 以上もあり、無理やり箱に入れることは困難です。



初めは箱が怖いものではないと教えながら、徐々に輸送箱に出入りできるようにし、箱の中に入ってもおとなしくしていただけるようにトレーニングを繰り返しました。

飼育員同士の引継ぎや、輸送箱に入るトレーニングを経て、平成 28 年 9 月 20 日に金沢動物園にチャメリーは引っ越しました。

練習の成果もあり、チャメリーはとても順調に金沢動物園にやってきました。



新しい動物舎に到着してもチャメリーは落ち着いており、初めて会うボンやヨーコにも驚くことはありませんでした。

チャメリーが引っ越してきてからしばらくは、ズーラシアの職員が金沢動物園に通いながら両園の飼育員と一緒にチャメリーの世話をしました。新しい環境に少しずつ慣らし、ボンやヨーコとも顔合わせします。



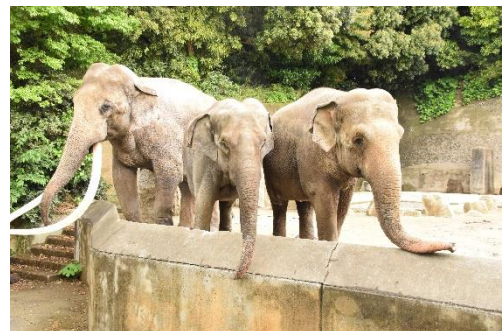
ゾウはとても大きな動物ですが、精神的な影響で体調を崩すこともある繊細な一面もあります。安心できないときは立ったまま眠り、横になりません。



ズーラシアや金沢動物園ではゾウを 24 時間観察できるように監視カメラを設置していますが、合わせて Plus Cycle 活動量計 を装着することで、両方の動物園の飼育員がチャメリーの状況をチェックできるようにしました。

引っ越してほどなく、チャメリーは横になって眠るようになり、ボンやヨーコとも一緒に展示場で過ごすようになりました。

今では、3 頭と一緒に展示場に居るときが、ゾウ達が一番落ち着いているように思います。



ゾウの引っ越しの目的である繁殖はまだ実現していませんが、綿密な計画や、準備により、チャメリーを無事引っ越しさせることができました。また、Plus Cycle 活動量計 のような新しい技術の導入により、これまではできなかったデータの共有や活動の評価も実現しました。

動物園は動物を繁殖させ種を保存する場所であると同時に、調査や研究を行う場所でもあります。これからも、動物にとってより良い飼育ができるように努力していきたいと思います。そしていつか、横浜の動物園でもゾウの繁殖を実現させたいです。